

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第3節 横浜FC戦

10/15(土) 13:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

シュート1本の相手に負けるところだったぞ.....。 岐阜1-愛媛【第2節】

FC岐阜は長良川で愛媛FCと対戦し、1対1で引き分け。試合終了間際に佐藤選手が同点PKを決めて引き分け。まずは負けない事が大事。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）
この試合でよかったこと。天気と、その青空に映える岐阜城のメインスタンドからの眺め。まあ、終了直前の同点劇も加えておきましょうか。そんな感じです。
それにしても、一向に熟成してきません。チャンスの芽も、ことごとくトラップ・ミスや優しくないパスで潰してしまいます。前半は、コチラの左サイドでハラハラ。相手のミスで事なきを得ましたが、失点はその左サイドからのクロスを、これまたお馴染み、どフリーのファーサイドから叩き込まれました。「愛媛って、シュートあったっけ？」と思ったら、やっぱりこの試合の初シュートだったようです。初シュートがゴールとは、なんとも気前のイイことで（苦笑）。それにしても、ウチの選手は、どうしてこんなにファーサイドが「いらっしゃ~い」んでしょうか？もしかしたら、「ファーは捨てる」とか「気にするな」とか指示されてますか？首脳陣から。
押谷のシュートがバーを叩いた時は「これが流れか.....」と思いましたが、やはり一点差というのはどうなるかわかりません。愛媛のGK川北選手には、お礼を言わなきゃいけませんね。いっぱいアディショナルタイムを積み立てておいてくれましたから（爆）。そうはいつでも、終盤に粘りは見せてくれました。「執念」とか「負けられない」という気持ちがあるからこそPKを奪い取ることができたのでしょ。

ただ、拍手はあげられない。徳島戦に比べれば、はるかにチャンスはあったんですから、引き分けではもったいない。この日の愛媛は、アウェイで戦った時と違い、最近の成績がわかるような調子の悪さ。こういう相手に勝ってこそ、少しでも上の順位が見えてくるというものではないでしょうか？あまりホメられたものではない試合でした。だからといって、そんなにブア、ブアと連呼されたくないですゾ？>監督。ブアなのは、選手だけでしょうか（苦笑）。（ぐん、）

ようやく訪れた『無失点試合』は嬉しい勝ち点3！ 栃木0-岐阜【第5節】

TVで、岐阜の勝利を目の当たりにしたのは初めてだ.....。J参入後の勝利は、全部現地で味わってきたけど、とうとうこういう日が来たんだな。でも、特にそれほどの感慨もない。もちろん、悔しさなどあるはずもない。それは、負け惜しみでも何でもなく（笑）ただ、この日にグリスタに駆けつけることができた仲間が、素直にうらやましいと思うだけ。おめでとうっ！と、心の底から祝いたい！！
人数の多寡でもなく、声の大小でもない。平日とはいえず、岐阜サポの声援がまったくなかったとしたら、グリスタに岐阜サポが一人もいなかったとしたら、選手たちはあんなにファイトできたろうか？選手もサポも素晴らしかった。監督の選手交代も、なぜだかこの試合は積極的だった（爆）。
そして、何と言っても、初完封！「遅すぎるヨッ」と言いたいけど、正直今季は見られないかも.....と悲観していた。秀人と明弘が次節出場停止という代償があったけど、北九州戦は二人以外の全員に託そう。ホント、もっと早く、もっとたくさんこういう試合を見せてくれよ。あと、初っ端のどフリー。アレは何としてでも決めよう、和範。あの一対一は必ず決めよう、阪本（「初ゴールだったのに.....」）。このところ、絶不調の栃木に対し、どちらかが、あるいは両方とも決めていれば、もっと楽に戦えた。そうすれば、中二日のアウェイ連戦に少しでも余裕を持って臨めたかもしれない。チャンスは、確実に決めてほしいね。

それでも、まちがいない、今季のベスト・ゲームだったよ！（ぐん、）
「最も負けたくないチームはどこか」と尋ねられたら、僕は即座に「栃木SC」と答える。J昇格同期のロアッソ熊本よりも、東海北陸ダービー相手のカターレ富山よりも負けたくない相手。理由は省略する（笑）が、僕にとって栃木はそういうチームだ。今節の岐阜は普段と違って。かつての仲間・高木和正がいる栃木に負けなくなかったのか（笑）、選手たちは試合開始から積極的に動いていた。また、FW2人が久しぶりに西川・佐藤のツインタワーで、いつもと比べて素早く、シンプルに縦へとボールを運ぶ意識が強いようにも感じた。流れを掴んで試合を優位に運ぶ岐阜。後半は少し栃木に押し込まれ気味になるが、66分、明弘からのグラウンダーのボールをニアで優大が、ファーで洗いが潰れ役になり、その大外から嶋田が飛び込んできてゴール！その後、試合は栃木優位になり、84分には秀人が警告2枚で退場となってしまおう、逆にこれでウチは守りきる戦術にシフト。栃木の猛攻を守りきって、アウェイで、栃木相手に、今季初の無失点で、勝利！！この敗戦で昇格争いからも後退し、静まりかえるアウェイの地で、岐阜サポの凱歌だけが響き渡る。平日ナイターに駆けつけたサポたちは、さぞ痛快だったことだろう（羨望）。これこそがアウェイの醍醐味だ。
低迷している今のチームでも、ひたむきに走って、すばやくシンプルに前にボールを繋いでいけば、上位陣にも通用するのではないかと思わせてくれた試合だった。この結果を自信にして、残りの試合を期待したい。（ささたく）

today's guest

横浜FC

2010 J2 6位
J2通算対戦成績 : 3勝 2分 4敗
2011成績
第1節 11/05/14 横浜FC1-1岐阜
2010成績
第1節 10/06/05 横浜FC2-0岐阜
第3節 10/10/30 岐阜0-横浜FC

2011J2 順位表 第3節 変則

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績（岐阜から視点）

1	FC東京	57p	+35	50	15	A	H
2	札幌	53p	*15	36	21	H	A
3	鳥栖	50p	+25	48	23	A	
4	千葉	50p	+11	40	29	A	H
5	徳島	49p	+13	39	26	H	A
6	栃木	43p	+8	32	24	H	A
7	東京V	41p	+20	54	34	H	A
8	北九州	40p	-6	28	34	A	
9	熊本	40p	-6	25	31	A	H
10	湘南	38p	-4	30	34	H	
11	大分	37p	-1	30	31	H	
12	愛媛	36p	-8	30	38	A	H
13	草津	35p	-10	30	40		
14	京都	34p	-6	31	37	H	
15	横浜FC	31p	-9	28	37	A	
16	富山	31p	-13	25	38	A	
17	岡山	31p	-16	32	48	H	
18	水戸	28p	-9	29	38	H	A
19	鳥取	27p	-7	28	35	A	H
20	岐阜	16p	-32	22	54	---	---

次回 HomeGame

第7節
ギラヴァンツ北九州戦

10/26(水) 19:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集！

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信（岐大通）
10/15号
編集発行：『岐大通』製作委員会
今号の製作担当：ささたく & 吉田鎬造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での発行を目標にしますので、よろしくお願致します。

クラブの方はご存知ないのかな？実は 天皇杯は「負けたら終わり」なんですよ。 岐阜 0-北九州【天皇杯 2 回戦】

現在、リーグ戦では最下位のFC岐阜。リーグで不本意な成績に甘んじているチームにとっては、カップ戦は名誉挽回のための絶好の機会。ましてや天皇杯は日本サッカーで最も権威ある大会。その初戦の相手は、ギラヴァンツ北九州。わずか9日前にリーグ戦で逆転負けを喫した相手だ。だけど、前の対戦は中2日でのアウェイ2連戦目だったのに対し、今度は岐阜のホーム戦だ。しかも、今回はレギュラー2人を累積警告で欠いての試合だったが、今回はメンバーが揃う。確かに今季の北九州は岐阜よりも上位にいるが、先週の反省点を修正してチームがひたむきに戦えば、勝てるはずだ。...と思っていたのは、僕を含めたサポーターたちだけだったのかなあ...（溜息）。

先制点を奪われたのは、わずか開始6分での出来事だった。CKからゴール前にボールが入ってきたのを、何度も落ちてクリアできる場面がありながら、その度にクリアミスをして、最後は（あんな混戦の中で）フリーにさせていた北九州FW池元にボールが渡り、押し込まれて失点...。今季は残念ながら、選手間の戦術への意思統一ができていないために動きが連動していないことが多く、だからこそ最下位という成績なのだろうけれど、試合開始から「うわ、今日も酷い...」と気持ちが萎えてしまうような展開。中盤ははっきりとスペースが空いて相手に自由にボールを持たせているし、両サイドは上がった裏を簡単に狙われる。パスの精度が悪くて前に繋げないどころか、無策に後ろで回している隙を敵FWに突っかけられて危険な場面を招く。サポートやフォローするべき選手の動きが悪くてセカンドボールがほとんど拾えないし、相手選手へのチェックが甘い。10月にしては日中の試合で暑かったが、すぐに足が止まってしまう。そして何より、FC岐阜の選手たちから、「この試合に絶対勝つんだ」という、勝利への執念というものが全く見えてこなかった。

後半はロッカールームで檄が飛んだのか、FC岐阜の動きも少しは良くなった（と思う）。シンプルに裏を狙う動きで、何度かチャンスを作り出す。後半22分には、嶋田が抜け出したところを敵DF富士が倒して一発退場、数的優位に立つ。これで岐阜が更に優勢に試合を進めるが...しかし、これで逆に北九州はしっかりと1点を守り、カウンターを狙う作戦に切り替えたようだった。岐阜はボールを奪って攻めるものの、前へボールを供給するまでに（無意味に思えるパス回しが入るので）時間がかかり、すぐ相手に引かれてしまう。また何度もクロスを上げるが、ボールが合わなかったりゴール前の人数が足りなかったり。あるいはセットプレーで跳ね返されたボールを拾えず、逆にピンチを迎えてしまったり。どうしても北九州のゴールを割ることができない。嶋田には決定的なチャンスが（僕の記憶では3度ほど）あったと思うが、どれも相手GK佐藤に防がれてしまう。あれは（少なくともどれか1つは）決めてくれ...1点でも入ってれば、延長戦に持ち込めるし、数的不利になってFWを減らした北九州からは勝ち越し点を奪う機会もあったと思うのだが。こう決定機を何度も逃しているのは、勝てるはずもない。こうして、今年の実業杯も（昨年に引き続き）2回戦敗退という結果で終わってしまった（深い溜息）。

まあ、今季のリーグ成績からしたら順当な結果なのかもしれない（自嘲）が...選手たちは、この試合をどんな試合だと思って闘っていたんだろうか？「リーグ戦と同じ単なる1試合」？あるいは「リーグとは関係ない試合」？そう思っていたのだとしたら、それは大きな間違いだ。今のチーム状況、そしてクラブの厳しい経営状況を打開する為にも、今日の試合は「どうしても勝たなければならない試合」だった。そしてクラブは、そういう事を選手には伝えていないんだろうか？なんだか今日の選手たちの動きを見ると、「自分たちの活躍が、クラブの未来そして自分たちの未来をも切り開くんだ」という事がきちんと理解できていないように思えて、とても悲しかった。

また、ベンチ登録が6人で、しかしピッチ内練習では地主園（東海大在籍の強化指定選手）がいた事を考えると、天皇杯での登録で、クラブに何かしらのミスがあったと思われる。猛省を求めたい。

個人的に注目していた、初出場のGK川浪は良かったと思う。失点時はゴール前の混戦で仕方ない状況だったが、その後の1対1を防いだ動きや、大きな声でのコーチングは、今後期待できると思う。恭平と正GKの座を争って、お互いに切磋琢磨してほしい。

さて、これで泣いても笑っても、今季の公式試合は残り10試合だ。試合後に「～しないといけない」なんて選手や監督の言葉は、（申し訳ないけれど）もう聞き飽きた。ひたむきな勝利への執念で、最後まで闘う姿勢で、勝ち点3を、そして、みんなで万歳四唱を！（ささたく）

いや、今季はいろいろヒドイ試合を見せられてるけど、この試合もかなりの位置にランクされるんじゃないかな？で、まあ、なんというかさ.....。

ウチの場合、サイド・アタックにムリヤリSB絡ませる必要ないんじゃないかな？もうさ、SBは上がらなくていいよ。蓋でいいよ、フタで。その方が、守備ラインに穴が空かないような気がする。上がったら上がりっぱなしで戻りきれないから、逆サイドがどフリーとかになるんじゃないの？サイドのスペースは、SHとFWに自由に使わせてあげたらイイと思うよ？それと、カウンターのチャンスに、スローダウンさせるだけのボランチももうオナカイッパイです。優大の言葉を借りれば「各駅停車の運転士」みたいなもんだよね（笑）負けてんだから、後半アタマからハンジェでどうなの？明弘が足をツラせたというアクシデントはあったけど、4バックにこだわる理由は何？代わりに出てきた選手は、リードされた場面で右サイドができる選手じゃないような気がする。失点の原因も、向こうのロング・フィードに対しての競り合いから。長身FWと競り合うには、少し守備が軽かったような気がしてならない。

天皇杯はトーナメント。負けたら終わり。そういうことわかってるのかな？おまけに、ひとつでも多く勝ち上がれば、それだけ強化費も多く入る。そんな側面もあるんだけどね。この試合は、たまたま、相手が退場してくれたから、終盤攻撃ができたけれども、それまではキックオフ直後を除けば、北九州にペースを握られていたような気がするのは被害妄想過ぎるかしらん？それと、北九州は先週の反省を生かしコチラを研究してきたフシがあった。前半勝負。それに比べ、コチラは何か対策、研究をしたのかな？それはこの試合に限らない。どの試合も自分たちの都合だけで進めていく。その結果、相手が不調ならなんとかなるけど、好調な時はもちろん、ふつうなだけで二進も三進も行かなくなる。ここまでの成績が示すとおり、岐阜の戦闘能力は高いとはいえない。だったら、相手のストロング・ポイントを消すことも必要じゃないのかな？「セット・プレーに気をつける。」なんてのは指示のうちに入らない。マークとかをどうするのか？そもそも、先週と戦法を変えてきた相手に対し、セット・プレーにならないようにするための臨機応変な指示はできていたのだろうか？「個性を活かした攻撃的なサッカー」はいいけど、今季の岐阜には謙虚さが不足している。今の自己の力量を熟知して試合に臨んでほしい。そして、相手がいきなり試合できない。もう少し、相手のことも考えてサッカーしてほしいな。

今季の岐阜のサッカーについて、いろんな解説とかリポートとかを見聞きすると「ワルくないサッカー。」だとか「いいサッカーをしている。」だとか評されている。玄人やプロには、何かそういったモノが見えるのだろうか？少なくともボクにはわからない。

「いいサッカーをしようとしている。」それなら、少しは理解できる。ただ、それが完成するのは、いや、熟してくるのはいつなんだろう？まあ、待てというなら待ちま.....、う~ん、ちょっと自信ないな（笑）（ぐん、）

【セカンド】精一杯やった。だから 胸張って帰ろう。 清水 2-0 岐阜 SECOND【天皇杯 2 回戦】

スタメンの GK が川浪だと知った時は正直言ってかなりワクワクした。この試合の前の週に行われた J2 のアウェー北九州戦で恭平がケガをした時に「戦闘態勢 120%」の準備をしたのを見ているし、普段の長良川の試合でも、途中交代の選手を送り出す時の気合注入も見ている。もちろん、戦う気持ちの発現と GK としての能力はまったく別なのはわかっている。それでも、リーグ戦で「単独ぶっちょり最下位」に相応しい内容のサッカーを見続けていると、どこかに『一点突破全面展開』の魔法の鍵でも落ちていないだろうか？とってしまう。ところが。

前半のサッカーには絶望しか感じなかった。こりゃ、またしても「ヒドい試合記念碑」を用意なきやいけないのか？とってしまうくらいヒドさだった。川浪がヒドかったのではない。なぜ、何百キロと離れた街から遠路はるばるやってきた相手に試合開始早々から出足で完敗してしまうのだろう。「前週の負け(2-3)の借りを返す」という意気込みは、ピッチのどこからも感じられなかった。いや、それどころか『天皇杯なんか戦いたくない』という気持ちすら感じてしまった。もちろん、間違いなくぼくの勘違いだと思うけど.....

後半開始からコーイチを下げたし、早いウチに染矢を入れて正吾を最前線に入れてきたし。ベンチには“やる気”はあったみたいだ。これまでの木村監督からは考えられないくらい早く手を打ってきた。ただ、対戦相手の北九州は一発退場で選手が 10 人になったことで、ゲーム・マネジメントがはっきりしてしまった。カップ戦に得失点差は関係ない。しっかり守って 1-0 でいけばいい。池元を下げて長野を入れて来たことがわかりやすい。キープが出来る長身 FW を入れることで、攻めこまれた際のクリアボールを最前線ですべて受けて時間を使うことが出来るし、彼は福岡時代は CB だったのだから、セットプレーでも高さで対抗出来るだろう。

一方、岐阜の 3 枚目の交替は明弘 村上だった。繰り返すが天皇杯は負けたら終わり、得失点差が問題になるゲームではない。失点のリスクは度外視で 1 点ビハインドを追いつかなくちゃいけない試合の交替策としては、あまりに消極的に過ぎないだろうか？

この試合のキーポイントは、「ベンチ入りが 6 人だった」ということだと思う。ぼくは確認していないけど、「ピッチ内練習には地主園がいた」という話を後から知って、びっくりしてしまった。彼は『JFA・Jリーグ特別指定選手』として FC 岐阜でプレーしている。本来の所属は東海学園大学サッカー部だ。ぼくら一般のファンでもカンタンに接することが出来る「日本サッカー協会」の公式サイトで『特別指定選手制度』について調べれば、「活動対象試合」に天皇杯が含まれていないことはすぐにわかる。まさかとは思うが、ウチのスタッフが地主園を出場させるつもりで用意していたとか...? いや、まさか、そんなことは、ね.....がくがくぶるぶる(苦笑)。

実際のゲーム内容は「地主園がいない」ことによる攻撃オプション不足を如実に感じちゃうモノで、前週の J2 アウェー戦では守備の駒が足りず、この日は攻撃の駒が足りず。結局は駒不足。でも、チームがケガ人だらけの野戦病院状態で「本当に使える駒がいない」のならば、ベンチ入りを減らしてまでサブ組は『使いたくない』選手だらけだったのなら、チーム編成者(強化担当)にはシーズン終了後は責任を取ってもらわないと。アタマ丸めるくらいじゃ済まないぞ(苦笑)。

試合後の記者会見の内容をネットで読んだ。木村監督はいつも通りに「やろうと思っていたが出来なかった」「修正していきたい」。いったい、いつになったら出来るようになるのだろう。修正出来るのだろう。「来シーズンには...」なんて悪い冗談は、夢に出てきそうだからやめてください(苦笑)。(吉田鑄造)

10月8日のFC岐阜SECOND(以下2ND)天皇杯2回戦はJ1の清水エスパルスとの一戦。残念ながら、0-2で敗退となりました。

今だから言えますが「負けて当たり前」という気持ちで乗り込んだアウスタ。選手の体格は全くの別物、アップ時点でのプレーの精度も全くの別物。J1のレベルを試合前から痛感。それでも決して引くことなく、それぞれの選手が役割をきちんと果たしたことで試合の形を作った2ND。無失点でいけば...と感じ始めた前半終了間際にギヤを上げた清水に対応しきれず連続して2失点。しかし後半には相手のシステムの間を突いてシュートまでもっていくシーンもありました。後半だけ見ると0-0、十分な結果だと思えます。

運営面でも岐阜とは雲泥の差。「J1で有ること、有り続けること」がいかに凄いかを体験した一日でした。

(ち~な)

岐阜セカンドとJ1・清水の公式戦。もちろん、セカンドが勝つために策を練り、勝とうとして戦った。しかし、清水エスパルスはやはり策を練ってどうにかなる相手ではなかった。

どうにかなった部分も多い。清水の中盤を完全に支配され、ボールを左右に散らされてもラストパスは通さなかったし、カラダを張ったDFでシュートまでは行かせなかった。前半40分過ぎまでは、そうした戦い方がきっちりハマっていて、ゴール裏にいたぼくは「もしかしたらスコアレスで前半を乗り切れるかもしれない...」とうっすらと夢を見た。でも、ギヤを上げた清水は残り5分できっちり2点を挙げてしまった。

後半は清水の中盤も多少緩くなって、セカンドも攻撃に入れる機会が増えた。けれど、押し込まれている状況で前線に人数をかけるにはトップでボールが収まらないといけないうのだけど、松江に細野の2トップはJ1のDF相手にポストをこなすことも出来なかった。試合はそのまま2-0で清水エスパルスの勝利で終わった。まさに「力の差」というヤツだ。

試合が終わり、セカンドの選手達がゴール裏に挨拶にやって来る。すると、清水のゴール裏からすぐに「セカンドー、岐阜！」コールが飛んできて、思わずウルッと来てしまった。こちら清水コールを返す。そして「国立へ行けよ~、絶対行けよ~」と歌も返す。天皇杯のいいところだ。

セカンドの選手達がこの試合で持ち帰れるお土産はものすごく多い。Jの強豪と公式戦で戦い、そこで得られた課題をチームに活かす。これも、天皇杯のいいところ。

セカンドの選手達はこの経験を糧にしてほしい。全国社会人も、来年の東海リーグも、来年の岐阜国体で選ばれた時も。間違いなく清水より強いところは出てこない。

(吉田鑄造)

ALADDIN

何も無い店だけど...

心の花が咲くだけ

何も無い店だけど...

心の癒される...

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

これが単独最下位の『実力』ですか。 北九州3-2岐阜【第30節】

岡山に引き続き、今まで一度も負けたことがなかった北九州に負けた。ホントに今季はいろんな抛り所がなくなっていくなあ。といっても、北九州とは去年2回やっただけだから、自慢するような連勝記録じゃないけどね。久しぶりの本城は、ホームとアウェイの位置が代わっていたけれども、相変わらず45分計時の時計しかないし、臍目かもしれないが「メドウの方がいいよね？」なんて思ってしまう。ただ、アチラは小倉駅近くだかに専用スタジアムを造るといふ話も聞こえてくるのがうらやましい。さて、肝心の試合といえば、決めるべきどころを決めないところなる、という内容。どフリーで狙いすまして蹴っておきながら、枠を外された時の脱力感はんぱない。突き上げかけた両腕の持って行き場をどうしてくれる（苦笑）。前節に続いて、もったいなさすぎだよ、和範。それから、押谷の一对一も、地主園も……。追いつかれたとはいえ、まだ同点。北九州につけるスキは十分あった。勝ち越しておけば、たぶんそのままイケたと思う。その反動から、流れは自然と北九州に傾き、そして、決勝点の起点となったクロスの場面は右サイドの守備がヌルすぎた。ボールホルダーに対し寄せるでもなく、中途半端な対応でグラウンダーのマイナスクロスを入れさせ、後ろからフリーで上がってきた選手にミドルを決められる。恭平もわずかに触れたが、勢いに押された。ただ、恭平は直前の場面で、相手選手と交錯して痛んでいた。吾郎への交代寸前で復帰したが、ケガの影響はなかったのか？あのまま、吾郎との交代でよかったんじゃ？という疑問が残る。負けたけれども、北九州は順位ほど差があるとは思えない相手。今月中にあと二回戦う相手。いずれもホームなんで、ぜひともリベンジを！（ぐん、）

それは試合開始前からわかっていたことだ。前節の栃木戦で秀人が退場で出場停止、右サイドバックの明弘も警告4枚でこの試合は出場停止。この緊急事態に対し、木村監督が採った策は、右に村上（普段は左サイド。右サイドバックは岐阜に来てからは初めてでは？）で中は秋田とノガ。対戦相手の北九州には、快速どころか急行か特急か（笑）というFW池元友樹がいる（彼がどのくらい速いかは古株の岐阜サポならよ～く知っている）。守備に期待して膠着戦に持ち込むのは無理、点を取られることは承知で「相手より多く取る」ことに勝機を見出すしかない。もちろん、明弘が出られない時に左が本職の村上を持ってくるしかないという戦闘態勢の準備不足はあるんだけどね。でも、この策はうまくいったように思える。ありがたいことに、北九州もその“叩き合いサッカー”につきあってくれた。だから、せめて3-3にはしなくっちゃ。GKとの1対1を珍しく正面に蹴ってしまった押谷もだけど、左サイドから上がってきてコースを狙いすまして枠の上に蹴ってしまった和範（そのシュートは岐阜サポの方に真っ直ぐ飛んできたんで、サポはみんな崩れてしまった（苦笑））や、最後にシュートをフカしてしまった地主園。やっているサッカーに岐阜と北九州の順位ほどの差は感じなかった。でも、シュートの正確さには差があった。一言で著しちゃうと「ヘタだから負けた」。ヘタだから、単独の最下位。そんな感じがして、なおさら悔しい。（吉田鑄造）

【コース】来季G2リーグへの昇格決定とJユースカップ参戦

我らがFC岐阜ユースU-18（以下岐阜ユース）はG3のリーグ戦を全勝で勝ち抜け、今年は開催された「G3リーグ入替トーナメント（G2参入戦）」に参戦していました。10月1日に初戦、8日に決勝を戦い、2勝して見事優勝。これにより岐阜ユースは来シーズンG2リーグへの昇格が決定しました（パチパチパチ）。そして今年最後の公式戦は「Jユースカップ」。岐阜ユースはDグループに属しており、相手は横浜F・マリノスユース（昨年優勝、プリンスリーグ関東1部所属）アルビレックス新潟ユース（プリンスリーグ北信越1部所属）、清水エスパルスユース（優勝2回、プレミアリーグEAST所属）と対戦します。そう、はるかに格上のチームばかりです（大汗）。おそらく他のチームは岐阜ユースに対しては大量得点での勝利を目指してくるでしょう。でも我らが岐阜ユースの選手達の士気も高いと聞いていますし、きつと強敵相手に善戦してくれる筈です。初戦の日時は10月22日（土）13時KO。場所はここ長良川競技場。相手は横浜F・マリノスユース。岐阜ユースがメモリアルで試合するのって初めてじゃないかな？皆さんも緑の若人たちが頑張れるように是非応援に来て下さい。頑張れ！FC岐阜ユースU-18！！（シュナ）

【練習試合】トップ×セカンド

トップとセカンドの試合は初めてとか聞いたんで、久しぶりにメドウへ足を運んだ。リメイン中心のトップと、天皇杯へ向けての最終調整のセカンドとは試合に対する意味も気合も違うのはわかっていたんだけど……。スコアは、たしか4-2でトップの勝利。ただ、トップの選手はこの試合にどんな意識で臨んだのか。練習生も複数いたし、前日の北九州戦の影響もあるんでスタメンのポジションを決めるのも大変だったろうな、と思わないでもないが、ビックリしたのは川島選手がCBに入っていたこと。彼は、少なくとも今季はMF。中盤の底を担う位置付けじゃなかったの？何度か三田選手とかの交代で出場して、監督も「配球に期待していた。」とかインタビューで答えていたような記憶があったのだが、秀人が出場停止の状況でもCBとして起用しないんだから、今後もずっと中盤での起用を考えているはず。なのに、出場機会のないCBって、何か今後のプラスになるのかな？もしかしたら、TMというものの考え方が、ボクはまちがっていたんだろうか？川島選手のほかに、明弘も右SHで途中出場したもんなあ。確かに、彼はその位置でも使えるだろうけど、今季の岐阜の選手構成で彼を起用する機会なんて全くないと思うんだけど。オシ、ソメ、嶋田、阪本に地主園。よりもよって、一番飽和しているポジションだよね。「練習のための練習」ではないことを祈りたいが、今季の成績の原因がわかるような気がしてならない。（ぐん、）

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チチミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休：日曜日（今日は営業しています）



Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>